米子市埋蔵文化財センターたより

第４０号　　２０２１年３月

博労町遺跡第２次調査　　－１区の調査終了－

古墳時代の土器の検出作業状況

令和２年９月末から開始した博労町遺跡１区の調査は、令和３年２月の初めに終了しました。センターたより第 39 号で中世の畠跡について紹介しましたが、その後の調査で、下層から奈良・平安時代と弥生時代後期から古墳時代の遺構が検出されました。奈良・平安時代の遺構は、平行するように延びる 16 条の溝状遺構を検出しました。また、かなり細片化した土器の破片が多く出土したことから、畠として利用されていた可能性が考えられます。隣接する第１次調査地（米子工業高校敷地）では、規則的に建ち並んだ役所の建物群とこれらを区画する柵などが検出され、役所に関わるような遺物も出土しています。今回の調査では、建物や役所に関わるような遺物は検出されていませんので、本調査地は、役所の区域外に位置し、畠がつくられていたと考えられます。

弥生時代後期から古墳時代の遺構は、掘立柱建物跡１棟、溝状遺構１条、水溜・水汲み状の遺構と考えられる土坑２基を検出しました。溝状遺構は、第１次調査で検出された集落の周囲を取り囲む大溝とつながるものと想定されます。第１次調査では、溝の中から完全な形をした土器が多く出土していますが、本調査地の溝からは完形の土器は数点出土したのみです。また、この時期の竪穴建物跡が検出されていないことと、この時期の出土遺物が第１次調査と比較してかなり少ないことから、集落の中心部は第１次調査地にあり、本調査地はその縁辺部に位置すると考えられます。

３月上旬からは２区の調査を開始し、５月末には調査を終了する予定です。調査により、さらに博労町遺跡の様相が明かとなることが期待されます。（高橋）

発　掘　調　査　情　報

－米子城跡枡形の範囲確認調査－

令和３年１月から、米子城跡の枡形の石垣の範囲確認を目的とした発掘調査を開始しました。幕末に描かれた米子城の絵図では、枡形の石垣の高さは２間(約 4m)とされていますが、現存石垣の高さはそれよりも低いため、どの程度まで埋もれているのか、謎となっていました。

結果、現在の地表面から最大で 1.5m 下まで石垣が続いていることが判明しました。これにより絵図の正確さを裏付けることができました。

また、枡形には明治 39 年から昭和 20 年頃まで、「米城焼」と呼ばれる陶器窯がありました。この「米城焼」は、現存する資料が少なく幻の陶器と言われていましたが、今回の調査で焼成に失敗した陶器の破片や窯道具、窯壁の破片などが大量に出土しました。

鳥取県では、近代の陶器生産に関する資料は極めて少ないため、鳥取県の陶器生産の歴史を研究する上で欠かせない資料となりました。(佐伯)

埋もれていた石垣

整　理　室　た　よ　り

寄贈書籍の整理　　－研究の歴史を語る多くの寄贈書籍－

埋文センターには、米子市所有の全国の埋蔵文化財報告書や研究雑誌約１万冊のほかに、研究をリタイヤされた方や、逝去された方の書籍類が大量に寄贈されており、整理が追い付かないようになってきています。

寄贈図書の内容は、鳥取県内外の埋蔵文化財報告書、自治体史、研究会雑誌、考古・歴史の研究シリーズ、単行本、文化財展覧会図録、リーフレットなどです。

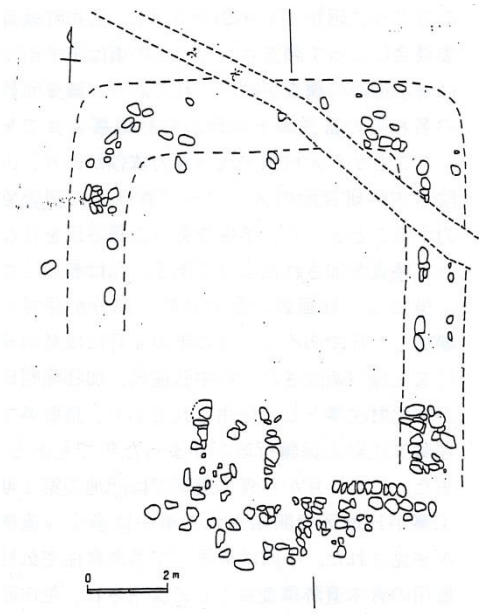
整理された寄贈書籍の一部

発行年は戦後すぐから現在に至る時期のものですが、当時数万円もした貴重な図書もあり、苦労して集められたものと思われます。主なものは、佐々木謙氏分 4,047 冊、大森隆雄氏分 3,488 冊、大村雅夫氏分 8,283 冊、大村俊夫氏分 2,570 冊、白石純氏分 800 冊などです。現在、畠中弘氏の書籍が順次搬入されており、合計すると２万冊に上るものと思われます。これらの書籍は、登録整理したうえで、保存・活用していきたいと考えます。(小原)

遺跡シリーズ　　高田原遺跡（たかたばらいせき）

高田原遺跡は西伯郡大山町（旧名和町）高田字山の神向 1524 に所在する。ここは大山北麓の標高 130m の阿弥陀川東岸の丘陵地である。本遺跡はかつて布目瓦が採取されて「瓦窯跡」として登録されていたため、個人の畑地造成ため発掘調査を名和町教育委員会が行なった。検出された遺構は、一辺約 9m の自然石積み方形列石の建物基壇と考えられています。遺物は瓦が大半で、軒丸瓦、軒平瓦、平瓦、丸瓦の４種類あり、軒丸瓦は「単弁十二弁蓮華文」で上淀廃寺Ｉａ類と同范です。

高田原遺跡については、山中敏文氏が、「地形、遺跡の規模、軒丸瓦型式から単独ないし少数の堂宇からなる小規模な寺院であった可能性が高い」と指摘し、上淀廃寺と同時期の 7 世紀後半の小規模なお堂の山林寺院であったと考えられています。（小原）



高田原遺跡建物遺構図

コラム　　大正・昭和時代を掘る⑤　　ー博労町遺跡の石列ー

米子市博労町の米子工業高校校舎改築工事に伴って、2007 年から 2009 年にかけて博労町遺跡の発掘調査が行われました。

博労町遺跡は砂丘に立地する遺跡で、上層のシロスナ層に江戸時代から近代の遺構が、下層のクロスナ層に弥生時代後期から中世の遺構が検出されています。

主な遺構は古墳時代の竪穴建物跡や奈良時代の掘立柱建物跡、鎌倉時代の畠跡です。特に古墳時代の土器が大量に出土して注目されました。

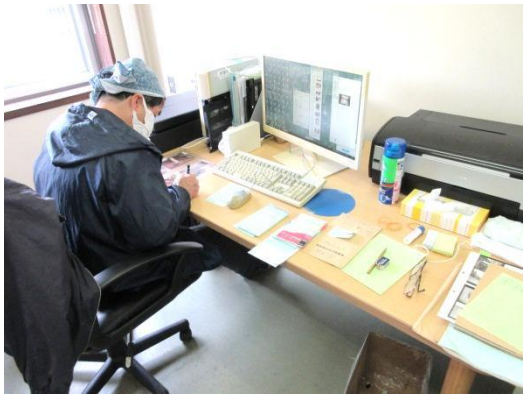
また、表土直下のシロスナ層から花崗岩切石の間に破砕礫を敷き詰めた長さ 17.2m、幅 1.6m の石組列が発掘されました。出土遺物から大正時代の何等かの建物の構造物と考えられています。（小原）

花崗岩製石列

センター・資料館日誌

12 月 11 日（金）米子城三の丸跡試掘の出土品が搬入された。

12 月 20 日（日）故畠中弘氏の寄贈図書・資料の追加分が搬入された。



畠中資料の整理作業

12 月 28 日（月）出雲市弥生の森博物館の坂本氏が石州府古墳出土の鉄器の返却で来館された。

1 月 15 日（金）百塚 88 号墳の土層断面剥取り品が仮搬入された。

1 月 20 日（水）鳥取県埋蔵文化財センター坂本氏が中世陶磁器資料の返却で来館された。

1 月 22 日（金）上淀白鳳の丘展示館の笹尾氏が井手胯遺跡資料の搬入で来館。

2 月 2 日（火）米子城跡枡形試掘の出土品が搬入された。

米子城跡枡形出土品の水洗作業

2 月 19 日（金）島根県古代出雲文化センターの是田研究員が上淀廃寺跡出土の壁画調査で来館された。

3 月　8 日（月）博労町遺跡第２次調査の第２区の発掘調査を開始。

3 月 11 日（木）鳥取市の久保穣二朗氏が借用遺物の返却で来館された。

3 月 23 日（火）因幡万葉歴史館鎌澤学芸員が大日寺瓦経等の調査で来館された。

行　事　案　内

「史跡ガイドウォーク」
―米子城跡を歩く―

最近の調査で解かってきた米子城の遺構をガイドして巡ります。

開催日時　　令和３年５月１６日（日）
　　午後１３時３０分～１５時３０分
集合場所　　米子城跡三の丸駐車場
定　　員　　先着２０名
資料代・保険代　２００円
申込方法　電話・FAX　氏名・連絡先を付して埋文センター受付２６－０４５５まで申し込んでください
申込期限　令和３年５月１２日（木）締切

編　集　後　記

桜の花が咲き禰めっきり春らしくなりましたが、コロナウイルスは死滅せず続いています。

職員はコロナに負けず頑張っています。

発行日　令和３年３月２６日
発行者　米子市埋蔵文化財センター
指定管理者（一財）米子市文化財団
電話　０８５９－２６－０４５５
E メール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp